大東文化大学経済論集　104－1，2015.09

地方銀行中央会社〔Société Centrale des Banques de Province〕の破綻

篠　永　宣　孝

はじめに

地方銀行中央会社〔Société Centrale des Banques de Province, SCBP〕は、地方銀行組合〔Syndicat des Banques de Province〕の指導者（銀行家）たち（326の地方銀行）によって、同組合所属の地方銀行家の活動をパリに集中して、大預金銀行や大事業銀行と同じように、大規模な公債・外債・鉄道債発行への参加や企業発起など産業投資に積極的に参画する目的で、1904年12月に資本金100万フランの株式銀行としてパリ〔20bis, Rue Lafayette〕に設立された。このSCBPは、第一次大戦前・戦時中のフランスにおいて二流ではあるが重要な「事業銀行」であったにも拘らず、同社創業以来の活動の実態は殆ど知られていない。また、戦後中国興業銀行〔Banque Industrielle de Chine, BIC〕の経営危機と同時に同社の危機がロイター通信社によって初めて報道された(1)が、その後のBICのセンセーショナルな「スキャンダル」の展開（BIC事件）(2)の陰に隠れて、SCBPの破綻と再建の試みについてはフランスにおいても全く注目されることがなかった。

そこで、本稿では、主としてフランス銀行やクレディ・アグリコルのクレディ・リヨネ史料、国立公文書館や外務省のアルシーヴなどを手掛かりに、この殆ど未知のSCBPの発展（沿革）と1920-21年の破綻・再建の試みに焦点を当てて、SCBPの活動の実態について検討してみよう。

1　SCBPの設立と発展

1850年代から登場してくる「新しい銀行」、とりわけ大預金銀行（株式銀行）の出現はフランスの銀行システムに劇的な変化をもたらした。これら「新しい銀行」は、一般大衆から巨額の資金（株式資本金や預貯金）を集中して、これを大規模な国債・外債の発行・引受、証券市場売買、産業金融・投資に運用することで「古い銀行」（オート・バンク、

個人銀行、地方銀行）の伝統的活動領域を侵食していったのである。大預金銀行は、全国の「退蔵された貯蓄を動員する〔réveiller l'épargne qui dort〕」ために、1870 年代から積極的に支店を地方に開設して全国支店網の拡充を図った[3]。こうした「新しい銀行」、とりわけ大預金銀行の全国的展開によって大きな打撃を受けたのは、19 世紀前半のフランス金融機構で最も枢要な地位を築いていたオート・バンクばかりでなく、1848 年以降、第二帝政期に澎湃と誕生していた小規模な地方銀行〔banque locale〕であった。大預金銀行の全国展開に伴って、地方銀行との間で熾烈な競争、顧客の争奪戦が繰り広げられ、ある者は大預金銀行に吸収されてその支店に転落するもの、あるいは競争に敗れて倒産するものも現れた。こうした大預金銀行の大攻勢に直面して、地方銀行は主として次の三つの方法で対処することによって、19 世紀末から 20 世紀初頭において地方銀行の「覚醒〔réveil〕」、地域銀行の「大躍進〔grand essor〕」が見られたのである[4]。すなわち、その対処法とは、(1) 大預金銀行に対抗して、地方銀行自らも拡張路線（規模の拡大）を取り、地方銀行同士が合併し、また支店を各地に増設することによって、いくつかの県や地方・地域にまたがって業務を展開する地域銀行〔banque régionale〕へと発展してゆくことである。(2) 新たな支店・出張所を地方に開設することで地方業務を拡大してきたフランス銀行との関係を強化して、地方銀行とフランス銀行地方支店との相互依存関係を構築することである。(3) 地方銀行が自らの利益を擁護するために、互いの連携・提携関係を強め、同業団体・組合〔syndicat〕などを結成して営業業務の拡大を図ることである[5]。こうして、1884 年に各県銀行家の共通の利害を擁護する調査団体〔société d'études〕として県銀行家組合連合〔Union Syndicale des Banquiers des Départements〕[6]が設立され、1913 年には 165 の加盟銀行を糾合した（合計 378 支店・営業所）組織となった。次いで、この県銀行家組合連合は、加盟銀行家の商業・金融業務を支援するために、商工信用銀行〔CIC〕の協力を得て 1885 年に県銀行家組合〔Syndicat des Banquiers des Départements〕[7]――組合長はドゥエ〔Douai〕の銀行家ルイ・デュポン〔Louis Dupont〕――を組織し、1899 年には地方銀行組合〔Syndicat des Banques de Province, SBP〕（加盟銀行全体の資本は 20 億フラン）をパリ（20bis, rue Lafayette）に組織した。そして、この地方銀行組合の指導者（銀行家）たちが大規模な債券・株式・社債発行や企業発起へ参画するための実働機関〔agent d'exécution〕として 1904 年 12 月 10 日にパリに設立したのが、地方銀行中央会社〔Société

Centrale des Banques de Province, SCBP〕なのである。

SCBP 設立の目的は、各地方での企業発起、その株式・社債の販売、大規模な国債・外国債発行＝引受・販売への参加、つまり SCBP 加盟地方銀行とパリ証券市場を仲介する金融機関・実働機関〔organ exécutif〕となることであった。

SCBP は当初資本金 118 万 5000 フランの株式会社として地方銀行組合〔SBP〕加盟銀行（各銀行一株の持株）によって設立されたが、その後数回に亘って参加銀行の追加があって、結局資本金 163 万フラン――額面 5000 フランの 326 株（1/4 払込）――にまで増資された。その後、SCBP は 1911-12 年に資本金 5000 万フランの新株式会社に再編され、1913 年には資本金 1 億フランに増資された[8]――資本金（1 億フラン）は額面 500 フランの 20 万株（1/4 払込）に分割され、内 4 万株は範疇 A（1 株当たり 1 票の投票権）とされ地方銀行組合加盟銀行に優先的に配分された。残りの 16 万株は範疇 B（10 株当たり 1 票の投票権）とされ地方銀行組合加盟銀行の顧客に配分された。範疇 A 株は記名株〔action nominative〕で、その譲渡には銀行取締役会の承認が必要であり、範疇 B 株はパリ公認仲買人の公定相場で通常に取引される。SCBP に参加した地方銀行は 500 行近くにも上り、合わせて 900 の支店、1461 の窓口がフランス全土ばかりでなく、アルジェリア、チュニジア、モロッコにまで配置された[9]。こうして、SCBP は加盟銀行のおかげで総計 20 億フランもの資本を代表することができたのである。1913 年における地方銀行組合加盟の地方銀行家に代表された SCBP 取締役会の構成は次のとおりである（表 1 参照）。

SCBP の金融活動は、創業から 1914 年までの間、主としてフランス国内の電気産業〔entreprises d'électricité〕の分野で行われた。すなわち、SCBP はピレネー電力エネルギー会社〔Société Pyrénéene d'Energie électrique〕やバザクル・ツールーズ会社〔Société Toulousaine du Bazacle〕を設立し、ロレーヌ電力会社〔Compagnie Lorraine d' Electricité〕、ロワール電気会社〔Compagnie Electrique de la Loire〕、中央電気エネルギー会社〔Energie électrique du Centre〕、パリ電力会社〔Société d'électricité de Paris〕、ガス連合〔Union de Gaz〕などの株式・社債の発行に参加した。さらに、SCBP は次のような金属会社〔Sociétés métallurgiques〕――les Aciéries de Paris et d'Outreau, les Mines, Fonderies et Forges d'Alais, l'Electro-Métallurgie de Dives, Société d'outillage mécanique――の株式・社債の発行に参加した。また、SCBP は中規模企業にも重要な融資を行った。

表１　地方銀行中央会社〔SCBP〕取締役会の構成（1913 年）

役員名	役職名	その他の役職、職業
Achille Adam	Président	Banquier, de la M^{son} Adam et Cie
Jean Buffet	Vice-Président	P^{t} de la Société Nancéienne
E. de Trincaud La Tour	Vice-Président	Vice-P^{t} de la Banque de Bordeaux
Casimir Petit	Ad^{r}-délégué	
Georges Arnaud	Administrateur	Banquier, de la M^{son} Arnaud-Gaidan Frères
Jean Bazin	d^{o}	Ad^{r}-Directeur de la Société Marseillaise
M^{cel} Bouilloux-Lafont	d^{o}	Banquier, de la M^{son} Bouilloux-Lafont Frères
Maurice Chalus	d^{o}	Banquier, de la M^{son} Chalus Frères
Emile Level	d^{o}	Dr du Comptoir d'Escompte de Mulheuse
Célestin Matheron	d^{o}	Dr de la Compagnie Algérienne à Paris
Jean-Marie Peron	d^{o}	Banquier, à Lannion
Amédée Reille	d^{o}	P^{t} de la Caisse C^{ale} et Industrielle de Paris
Raymond Richou	d^{o}	Banquier, de la M^{son} Richou et Cie, à Angers
Louis de Rosière	d^{o}	Dr de la Banque Privée Lyon-Marseille
Paul Tupin	d^{o}	ancien D^{r} à Paris du Crédit du Nord
Joseph Vadon	d^{o}	Banquier, de la M^{son} P. Vadon, à Roanne
René Varin-Bernier	d^{o}	Banquier, de la M^{son} P. Varin-Bernier et Fils
Jules Ranson	Directeur	
J. Lavagne d'Ortigue	Sous-Directeur	
R. de Chaunac-Lanzac	d^{o}	
Ch. Furiet	d^{o}	

〔Source : *Exposition universelle et internationale de Gand,* p. 81〕

実際、SCBP は地方・地域産業――Papeteries d'Alfortville, Blanchisseries de Thaon――の起債を行ったが、地方の小規模会社の設立や起債などに関しても、重要な仲介の役を担ったのである[10]。

だが、1911 年の増資と再編が行われてから、SCBP は、他の事業銀行に類似した名実ともに強力な金融機関（事業銀行）となるに及んで、国内での発行業務よりも一層外国の発行業務〔émissions étrangères〕を選好するようになる。

実際、SCBP は、大預金銀行や大事業銀行と同じように、第一次大戦前のフランス大衆から高く支持されていた外国債券類（外国債、都市債、不動産・鉄道債）を加盟銀行（銀行家）に供給することができた。すなわち、SCBP は早くも 1909 年に CIC と折半で 5600 万フランのデンマーク債を、J. ロスト商会〔J. Loste et Cie〕と協調して 1500 万フランの

フランス・コンゴ債を自ら交渉し契約した。さらに、SCBP は、とりわけアルゼンチンやブラジルの公債発行業務に関心を示し、外国民間企業への投資に関しても、ロシア、南アメリカ、ブラジル、アルゼンチンなどでの活動を活発化した。すなわち、ロシアにおいては、SCBP は多数の鉄道会社――Volga-Bougoulma, Nord-Est Oural, Altaï, Mer Noire, Société des Embranchements――の起債ばかりでなく、シベリア商業銀行〔Banque de Commerce de Sibérie〕やエカテリノフカ炭鉱〔Charbonnages d'Ekaterinowka〕などの起債にも参画した。ブラジルでは、ブラジル鉄道〔Brazil Railway〕の起債に協力し、多くの企業・銀行――Banque hypothécaire et agricole de l'Etat de Bahia, Crédit Foncier du Brésil, Compagnie concessionnaire du port de Bahia, Banque Française pour le Brésil――の債券発行に参加した。アルゼンチンでは、とりわけ次のような企業・銀行――Compagnie Anglo-Argentine d'Electricité, Banco El Hogar Argentino, Chemins de fer de Santa-Fé, Crédit Foncier du Nord en Argentine, Banque de l'Union de France et d'Argentine――の債券発行に参加した。また、南アメリカでは、パリ商工金庫〔Caisse Commerciale et Industrielle de Paris〕――事業銀行・投資会社で、その活動領域は南米の全ブラジル・全アルゼンチンに広がっており、ブラジル不動産銀行〔Crédit Foncier du Brésil〕、バイア港湾会社〔Compagnie du Port de Bahia〕、アングロ＝アルゼンチン電気会社〔Compagnie Anglo-Argentine d'Electricité〕などの企業を支配下においていた――とその事業にとりわけ重要な資本参加を行った。最後に、SCBP が外国で設立した最も重要な企業は、カナダ抵当金庫〔Caisse hypothécaire Canadienne〕と東洋不動産銀行〔Crédit Foncier d'Orient〕であった[11]。

このように、第一次大戦前の SCBP のフランス内外での活動は、正に設立目的に沿うように企業発起・資本参加など産業金融や公債・外債・鉄道債の発行などに積極的に参画する「事業銀行」そのものであったと言えよう。次の表 2 は、フランス主要銀行の資本参加〔participations financières〕と有価証券・株式保有〔portefeuille-titres〕の資産〔actif〕に占める割合を示している。これによると、SCBP の資本参加と有価証券・株式保有の資産に占める割合は、1900 ～ 1913 年平均で 12.4％に達し、フランスの主要事業銀行とそれほど遜色がない割合を維持していたことが見て取れよう（表 2 参照）[12]。

表２　主要銀行の資本参加と有価証券・株式保有（1900-1913 年平均）

資本参加･有価証券･株式の資産に占める割合（%）	最大値（%）	最小値（%）	平均（%）
クレディ・リヨネ〔CL〕	0.4	0.3	0.38
パリバ〔Paribas〕	30	13.1	21
パリ連合銀行〔BUP〕	28.6	10.3	19.3
クレディ・モビリエ〔CMF〕	43.4	10.3	24.6
フランス商工銀行〔BFIC〕	25.7	6.8	14.4
フランス信用銀行〔CF〕	25.9	15.2	21.4
地方銀行中央会社〔SCBP〕	14.9	7.8	12.4
ソシエテ・ジェネラル〔SG〕	13	4.4	7.7

〔Source : Laure Quennouëlle-Corre, *La place financière de Paris au XXe siècle, Des ambitions contrariées*, Paris (IGPDE), 2015, p. 43 ; Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, Paris, 1922〕

第一次大戦中の SCBP は、新規の企業設立は殆ど行わず、投資固定資産〔immobilisations financières〕も 1914 年の 2500 万フランから 1918 年の 2000 万フラン足らずにまで減少させたが、債券発行活動においては戦前からの重要性を維持し、とりわけ信用開設〔ouverture de crédit〕業務を発展させた。戦時中、SCBP は戦前と同様に電気産業分野への投資を強化した。戦前からのピレネー電力エネルギー会社やバザクル・ツールーズ会社への投資の他に、新たに次のような電気産業――Société hydro-électrique Drac-Romanche, Société de l'Eclairage électrique, Compagnie d'Electricité Industrielle, Energie du Sud-Ouest, Société des Forces motrices de la Vienne, Compagnie Générale d'Electricité, Compagnie Thomson-Houston, Campagnie des Tramways de l'Est Parisien, Société du Gaz de Paris――の新株・社債などの発行に重要な役割を果たした。第二に、SCBP は次のような金属工業――Société métallurgique de l'Ariège, Forces et aciéries de la Marine et d'Homécourt, Boulonneries de Brogny-Vraux, Forces et aciéries électriques Paul Girod, Société d'outillage mécanique, Société des Câbleries et Tréfileries d'Angers――の増資・社債発行に協力した。次いで、SCBP は、南西海洋造船会社〔Société des ateliers et chantiers maritimes du Sud-Ouest〕を設立してその新株・社債発行を行ったばかりでなく、フランス蒸汽船会社〔Campagnie des Vapeurs français〕や傭船主連合〔Affrêteurs Réunis〕の増資・社債発行に協力した。さらに、SCBP はベソノー・グループ〔groupe Bessonneau〕の企業――Société des Câbleries et Tréfileries d'Angers, Filatures, corderies et tissages

d'Angers, Société d'applications industrielles du bois――にも同様に金融的支援を行った。また、SCBP は自動車産業〔firme Brasier〕や公共事業会社〔Société Générale d'Entreprise〕や農業器具会社〔Société du matériel agricole et industriel de Vierzon〕などの発行業務にも参加した[13]。

他方、戦時中の SCBP の海外での活動は、戦争の影響で極めて限定的なものでしかなかった。

2　SCBP の破綻とその救済・再建

第一次大戦後、SCBP の投資活動は活発さを取り戻し、様々な地方企業への支援・協力の他に、金属工業、海上運輸業、復元 [再建] 企業〔entrprise de reconstruction〕の三分野を主たる活動領域とした。すなわち、金属工業において、SCBP は、ドイツから分離されたロレーヌの工場・鉱山を獲得したロレーヌ金属鉱山会社〔Société Lorraine minière et métallurgique〕の設立に重要な役割を担った。さらに、SCBP は次のような企業――Société des Aciéries de Micheville, Société des constructions mécaniques de la Courneuve, Société des forges de Froncles et de Vraincourt, Hauts-fourneaux et fonderies de Pont-à-Mousson, Chantiers généraux――の社債の発行に協力した。海上運輸業において、SCBP は、次のような企業――Affréteurs Réunis, Cie des Vapeurs français――の社債や株式の発行に参加した。復元企業においては、SCBP は次のような企業――Caisse Générale de l'industrie et du bâtiment, Société pour la Reconstruction de Reims et des pays dévastés, Société Générale d'Entreprises〕の増資や株式・社債発行に協力した。最後に、SCBP は Compagnie Générale des Tabacs の設立に重要な貢献をし、アンジェの大企業家ベソノーのグループ企業〔Câbleries d'Angers, Applications industrielles du bois, Meuble massif, etc.〕の株式・社債発行に協力した[14]。

SCBP は、戦後も継続してパリ地方への支店の拡張計画を展開し、1920 年には 15 店舗を数えるまでに拡大した。戦後 SCBP の活動の特色として、企業の設立や資本参加〔participations〕はそれほど多くはなかったが、信用の供与〔ouvertures de crédit〕という形での企業融資はとりわけ重要であり、実際、SCBP の当座貸越し〔comptes courants débiteurs〕額は、1918 年の 4700 万フランから、1919 年の 1 億 5100 万フラン、1920 年の

2億2900万フランと戦後に激増した[14]。また、手形・国防債〔portefeuille-effets et bons de la D. N.〕の戦後の急増も見逃せない。これらの資金需要に対処するために、SCBPは1920年7月に資本金を1億フランから2億フランへと倍増させねばならなかった。さらに、主として加盟銀行（銀行家）からの預金・一覧払貸方〔dépôts et créditeurs à vue〕——SCBPの預金銀行的業務の拡大——や銀行家貸方勘定〔banquiers correspondants créditeurs〕の戦後の著増も注目に値する（表3参照）。こうして、SCBPは、地方・地域銀行家との特別な関係を維持すると同時に、兼営銀行〔banque mixte〕——事業銀行兼預金銀行——のスタイルを取るようになっていった。

表3　地方銀行中央会社〔SCBP〕の貸借対照表、1911～1920年〔単位：100万フラン〕

各年12月31日	1911	1912	1913	1914	1915	1916	1917	1918	1919	1920
借方〔Actif〕										
株主	37	75	75	75	75	75	75	75	75	142
現金	7	17	14	11	19	13	17	21	57	28
手形・DN債	1	11	14	10	23	44	121	107	294	149
貸付・ルポール	4	5	5	5	4	3	2	2	2	〃
銀行家借方勘定		2	2	〃	3	1	2	5	12	17
当座貸越し	6	1	2	2	3	19	42	47	151	229
引受借方		7	17	15	13	15	14	17	1	12
有価証券・株式	3	18	18	21	20	19	19	16	16	21
資本参加	2	2	4	4	5	4	3	4	7	9
貸方〔Passif〕										
資本金	50	100	100	100	100	100	100	100	100	200
積立金		10	10	7	7	7	7	7	8	15
銀行家貸方勘定		5	12	8	15	20	39	56	96	124
預金・一覧払貸方				2	5	13	42	69	161	216
予告払貸方	12	12	14	15	33	42	37	44	56	46
手形引受	2	10	17	15	13	16	15	17	2	13
前年度ルポール									1	1
損益	1	2	2	〃	〃	〃	2	2	2	〃
総計	67	142	158	151	178	203	306	304	624	674

〔Source : Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, Paris, 1922, p.358〕

SCBP の 1911 ～ 1920 年の貸借対照表（主要項目）は表 3 に示されている。貸借対照表〔Bilan〕総計は 1911 年の再編以来順調に増加していたが、戦時中はやや停滞気味となった。ところが、戦後の 1919 年、1920 年に 2 倍以上に急増した。一方、利益〔profits et pertes〕は 1911 年以来、各事業年度せいぜい 100 ～ 200 万程度しか上がっておらず――特に戦時中の 1914 ～ 1916 年の無利益と 1920 年は 5300 万フランの損失――、SCBP はあまり収益のある事業ではなかったことが分かる（表 3 参照）[14]。こうして、戦後に訪れた平和経済体制への移行と 1920-21 年の世界恐慌の到来とともに、SCBP は、BIC と同様に、大きな財政的困難（資本の固定化の問題）に直面することになるのである。

このように、SCBP は戦後 1920 年から危機的状況を迎えることになるのだが、その時（1920 年 12 月の増資前）の SCBP 取締役会の構成を示すと次のようになり、地方の名だたる銀行家（名士）が名を連ねていることがわかる（表 4 参照）。

表 4　地方銀行中央会社〔SCBP〕取締役会の構成　（1920 年 12 月増資前）

役員名	役職名	その他の役職、職業
Charles Dumont	Président	ancien Ministre des Finances
E. de Trincaud La Tour	Vice-Président	P^{t} de la Société Nancéienne
Maurice Chalus	Vice-Président	Banquier, de la Maison Chalus Frères
Henri Bousquet	Vice-Président	Banquier, de la M^{son} Jacques Gunzburg et Cie
Emmanuel Gallut	Ad^{r}-délégué	ancien Inspecteur des Finances
Jean Bazin	Administrateur	Ad^{r}-Directeur de la Société Marseillaise
Joseph Bonnasse	d^{o}	Banquier, de la M^{son} Bonnasse, à Marseille
M^{cel} Bouilloux-Lafont	d^{o}	Banquier, de la M^{son} Bouilloux-Lafont Frères
Armand Gommès	d^{o}	Banquier, de la M^{son} Jules Gommès et Cie
Albert Hervet	d^{o}	Banquier, à Bourges
Emile Level	d^{o}	Dr de la Banque Nationale de Crédit, à Paris
Célestin Matheron	d^{o}	Dr de la Compagnie Algérienne à Paris
Jean-Marie Peron	d^{o}	Banquier, à Lannion
Raymond Richou	d^{o}	D^{r} de la B^{que} Nationale de Crédit, à Angers
Louis de Rosière	d^{o}	Dr de la Banque Privée, à Paris
Joseph Vadon	d^{o}	Ad^{r}-D^{gué} de la B^{que} Régionale du Centre
René Varin-Bernier	d^{o}	Banquier, de la M^{son} P. Varin-Bernier et Fils
Jules Ranson	Directeur	
Wehrlé	Dr-Adjoint	
R. de Chaunac-Lanzac	d^{o}	

〔Source : [Brochure sur la] SCBP, s.d., AN, 65AQ, A1275 (Société Centrale des Banques de Province)〕

1914年初頭に、SCBP頭取として、1913年12月に蔵相を辞任したばかりのシャルル・デュモン〔Charles Dumont〕[15]が就任したので、元大蔵省会計検査官エマニュエル・ガリュ〔Emmanuel Gallut〕[16]が、「技術支配人たち〔directeurs techniques〕を監督し、取締役会の決定を彼らに執行させる」[17] 役を担うために、代表取締役として招聘された。そして、「SCBPの取締役会には、高い名声〔grande honorabilité〕、能力、資産家で知られている各県の多数の銀行家が結集していた」[17]（表4参照）。フランス銀行総裁G. ロビノー〔Georges Robineau〕の説明によると、SCBPとフランス銀行の手形割引関係〔relations d'escompte〕について、SCBPのフランス銀行への債務〔engagements〕額は、1914年から1920年9月までの間、「同社資本金に、同社を取り巻くグループの利害の重要性に、同社の現実に果たすべき役割に、外国為替高騰以後のフラン通貨の下落に見合った数値」[17]を維持していたのである。それゆえ、その時期は正常な〔normale〕期間であり、「どのような好ましくない兆候も現れてはいなかった」[17]のである。しかも、1918年以降にSCBPの顕著な[債務の]増加があったにも拘らず、そう[正常]であった、と（表5、表6参照）[18]。

G. ロビノーは続けて、SCBPの「割引額の増加は、当時少しも異常さを示していなかった様々な事業〔affaires〕や工業電気会社〔Compagnie d'Electricité Industrielle〕のような国防産業へのSCBPからの資金援助で説明された。国家の要請や協力によって戦時中に始められた工事〔travaux〕は、SCBPの資本の固定化〔immobilisations〕をもたらす新たな条件で、休戦後も継続されねばならなった」[19] からである、と。実際、工業電気会社（社長Ch. デュモン）の手形〔papier〕は、SCBPのポートフォリオ〔Portefeuille〕に1918年7月から現れ始め、1919年11月の2800万フランにまで徐々に増加し、1920年9月までその数値が維持された――その後は激増することになるのだが――（表6参照）。同時期に、SCBPの債権にはジャン・ガルモ〔Jean Galmot〕[20]の230万フランの手形〔effets〕も含まれていた。1920年9月になって、SCBPは突然フランス銀行に「極めて重大な財政危機に直面している」[21]と告知した。「SCBPによって提供された情報によると、この財政危機は主として預金の引出し――当時[SCBPに]預金は4億フラン以上あった――によって引き起こされた。というのは、預金の対価は、様々な事業に、とりわけ、工事が精力的に実施されていた工業電気会社に固定化されていたからである」[21] と。社会全般の利益〔intérêt général〕の名の下に、フランス銀行は、「SCBPが割引可能な有価証券を保有

表５　SCBP のフランス銀行への債務（1914 ～ 1919 年）〔単位：1,000 フラン〕

年号	債務〔engagements〕（期限延長、期限延長無し）	
	最大〔maximum〕	最小〔minimum〕
1914	29,099	7,649
1915	28,544	25,161
1916	27,888	25,057
1917	28,593	24,447
1918	63,261	36,444
1919	104,000	49,290

〔Source：PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, No. 108, p. 318, Archives de la Banque de France〕

表６　SCBP のフランス銀行への債務（1920 年１月～ 1922 年１月）〔単位：1,000 フラン〕

年月日	債務〔engagements〕	内工業電気会社〔Compagnie d'Electricité Indelle〕の手形
1920 年　1 月　1 日	32,638	17,939
2 月　1 日	60,572	?
3 月　1 日	74,618	?
4 月　1 日	86,486	28,637
5 月　1 日	104,635	32,085
6 月　1 日	64,125	26,055
7 月　1 日	23,211	13,700
7 月 16 日	64,876	15,437
8 月　1 日	113,910	19,637
8 月 16 日	122,932	24,987
9 月　1 日	133,383	26,885
9 月 16 日	136,558	45,485
10 月　1 日	170,217	52,901
10 月 16 日	160,379	39,201
11 月　1 日	195,709	52,135
11 月 16 日	204,716	52,485
12 月　1 日	192,372	50,200
12 月 16 日	232,916	53,650
1921 年　1 月　1 日	266,867	53,350
1 月 16 日	282,084	51,200
1 月 20 日	292,610	51,307
1 月 28 日	316,813	61,307
2 月　1 日	328,581	78,900

2月 4日	335,359	82,800
2月10日	324,965	83,100
2月16日	320,896	81,950
3月 1日	301,713	83,100
3月16日	297,816	83,100
3月 1日	301,713	83,100
3月16日	297,816	83,100
3月 1日	301,713	83,100
3月16日	297,816	83,100
4月 1日	281,877	83,100
4月16日	263,484	76,760
5月 1日	252,709	80,536
5月16日	250,156	78,386
6月 1日	250,643	82,539
6月16日	241,044	80,539
7月 1日	239,937	84,614
7月16日	238,400	87,639
8月 1日	233,497	87,639
8月16日	221,556	86,486
9月 1日	217,861	87,624
9月16日	214,388	87,624
10月 1日	211,427	86,937
10月16日	209,294	85,339
11月 1日	215,441	87,153
11月16日	207,962	90,156
12月 1日	209,823	90,156
12月16日	205,154	93,150
1922年 1月 1日	249,692	93,156
1月16日	200,005	93,156

〔Source：PV de la Banque de France du 8 décembre 1921 et du 31 mars 1927, No. 108, p. 319 et No. 116, pp. 477-496, notamment 494-495, ABF〕

している限り」[21]、割引の形でSCBPを支援することを決定した。その結果、フランス銀行によるSCBPの割引高は、1920年10月1日の1億7000万フランから、同年11月1日の1億9600万フラン、同年12月1日の1億9200万フラン、同年12月16日の2億3300万フランへと急増したのである（表6参照）[22]。「1920年12月と1921年初頭はSCBPにとって極めて厳しい状況にあった。預金の引出しは、当時席巻していた全般的危機や不安感によって、また、SCBPが過度に貸付けていたゴー〔Gault〕、アトラス〔Atlas〕、ガルモ〔Galmot〕事件後に流布した悲観的うわさによって、引き起こされ、促進された」[23]のである。フ

ランス政府がフランス銀行の介入を要請していなかったのに、1921 年 1 月 1 日までにフランス銀行は SCBP に 2 億 6700 万フランという厖大な額の割引を供与していたことは注目に値する。この数値には、SCBP が保有していた全ての商業手形〔papier commercial〕とおよそ 9600 万フランの流動化手形〔effets de mobilisation〕――そのうち 5300 万フランは工業電気会社のもの――が含まれていた。つまり、フランス銀行総裁が蔵相によって中国興業銀行〔BIC〕の支援のために初めてパリの諸銀行を招集することを任された時に、フランス銀行は既に SCBP の問題に深く巻き込まれていたのであった。これら SCBP の莫大な債務にも拘らず、フランス銀行は 1921 年 1 月中に単独で自発的に介入支援を継続した。なぜなら、「もしフランス銀行が補足的で例外的なこれら割引を拒絶するならば、政府が国民の貯蓄を活用しようとしていた時に、極めて重大な恐慌が猛威をふるっているような時に、フランス銀行による 1920 年 4 月の割引率の引上げの失策の波及効果が最も古くて堅実な商会や様々な銀行で現れ始めているような時に、またフランス銀行が顧客に最も的確な警告を繰り返していた時に、銀行破綻の発生を放任しままではフランス銀行の義務を怠る（裏切る）ことになったであろう。この危機的状況に際して SCBP に支援をもたらすことによって、フランス銀行は実はフランスの銀行全体に支援をもたらした。フランス銀行はリスクが拡大していたのを承知していたが、全般的救済の利益のためにそうしたのである」[23] と弁明した。 しかしながら、1921 年 1 月末に、SCBP は、もはや再割引可能な手形を保有しておらず、それゆえフランス銀行に支援を仰ぐことができなくなったので、銀行窓口の閉鎖を検討せざるを得なくなっていた。G. ロビノー主導の下に、フランス政府による介入が目論まれ、要請されたのは正にその時であった。

フランス銀行総裁や SCBP 頭取シャルル・デュモンによって SCBP の危機的状況を知らされた蔵相ポール・ドゥメール〔Paul Doumer〕は、「パリ会議[24]が正に開かれようとするときに、フランスの銀行全体にとって甚だ由々しき結果をもたらすような事態を避けるために、個人的に介入する用意があると言明した」。しかし、「この会議への参加のため、彼は若干の限定的介入にとどめざるを得なかった」[25]。その結果、「彼はフランス銀行総裁に主要銀行を招集し、SCBP の財務状況を知らせるために、SCBP の代表者たちを引き合わせるよう求めた」[26]。早速 G. ロビノーはまずフランス銀行理事エドゥアード・ド・ロチルド〔Edouard de Rothschild〕（ロチルド商会）に照会すると、彼は全面的な協

力を約束した。蔵相 P. ドゥメールもまた「個人的に」E. ド・ロチルドに打診した。こうして、1921 年 1 月 28 日に、フランス銀行総裁は、「今回は銀行団〔Consortium〕に属さないものはない全ての信用機関」[27]と、ロチルド商会、パリ連合銀行〔BUP〕、フランス商工銀行〔BFCI〕、パリバ〔BPPB〕などを含む 20 ほどの銀行を総裁事務室〔cabinet〕に糾合させた。この会合で、SCBP は、「これは単なる資金繰りの危機〔simple crise de trésorerie〕であり」[28]、「予期される資金需要に対処するためにおよそ 1 億 5000 万フランの資金が必要である」[29]ことを知らせた。このように会合に参加した諸銀行は、SCBP に最低でも 1 億 5000 万フランに達する貸付金――当時のフランス銀行の貸出金利（6.5％）で――を準備するための銀行団を結成することを承諾した。こうして、SCBP 支援銀行団〔Consortium〕が 1921 年 2 月 2 日に結成され、35 銀行（SCBP 取締役会を含む）によって総計 1 億 6900 万フランが集められた（表 7 参照）。1921 年 2 月 8 日から 2 月 28 日までに支援金の 80％ が SCBP に貸付けられ、4 月 25 日に貸付額は総計 1 億 5800 万フランに達した。介入支援銀行団の利益を管理するために特別委員会〔Comité spécial〕[29]が直ちに形成されることも同時に決定された。そうして、三名の特別委員会メンバーが介入支援銀行団の中から次のとおり選出されたのである（J. エクスブレアが特別委員会委員長）。

レネ・ブードン〔René Boudon〕：	フランス商工銀行〔BFCI〕頭取（同銀行取締役アルフォンス・フュルストと交替可能）
ロジェ・ルイドゥー〔Roger Lehideux〕：	銀行組合連合〔Union Syndicale des Banques〕会長、パリバ取締役、ルイドゥー銀行支配人〔gérant de la Banque Lehideux et Cie〕
ジュール・エクスブレア〔Jules Exbrayat〕：	パリ連合銀行〔BUP〕取締役、ドマシー銀行支配人〔gérant de la Banque Demachy〕

〔Source : Lettre du Consortium des Banques intervenantes à la SCBP du 31 janvier 1921, MAE(SE, AO), Chine, vol. 102, folio 44-46 ; Lettre de J. Exbrayat, président du Comité, au Gouverneur de la Banque de France du 26 avril 1921 et [Liste des] Banques du Consortium, chemise《SCBP, 1921-1927》, AHCA (CL-Agricole), FCL, 98AH15〕

一方、フランス銀行は、「諸銀行との協議、支援銀行団の形成、銀行団の資金集めに必要な全期間の間、よりリスクの高い形で確定できないほどの割合まで SCBP の債務の増加

表７ SCBP への支援銀行と支援額 （1921 年２月）〔単位：フラン〕

Etablissements	支援額
1-Conseil d'Administration de la SCBP	8,500,000
2-Banque Française pour le Commerce et l'Industrie〔BFCI〕	12,500,000
3-Banque Nationale de Crédit (BNC)	10,000,000
4-Banque de Paris et des Pays-Bas (Paribas)	10,000,000
5-Banque de l'Union Parisienne (BUP)	10,000,000
6-Comptoir National d'Escompte de Paris (CNEP)	10,000,000
7-Crédit Lyonnais (CL)	10,000,000
8-MM. de Rothschild frères	10,000,000
9-Société Générale (SG)	10,000,000
10-Crédit Industriel et Commercial (CIC)	6,000,000
11-Banque des Pays du Nord	5,000,000
12-Banque Privée	5,000,000
13-Caisse Commerciale et Industrielle	5,000,000
14-Compagie Algérienne	5,000,000
15-Crédit Commercial de France (CCF)	6,000,000
16-Crédit Foncier d'Algerie et de Tunisie (CFAT)	5,000,000
17-Crédit Français	5,000,000
18-Crédit du Nord	5,000,000
19-Banque Adam	3,000,000
20-Banque d'Alsace-Lorraine	3,000,000
21-Banque Générale du Nord	3,000,000
22-Banque de Mulhouse	3,000,000
23-Crédit Mobilier Français (CMF)	3,000,000
24-Banque Transatlantique	2,000,000
25-Comptoir Lyon-Alemand	2,000,000
26-Banque Franco-Japonaise	1,000,000
27-Lehideux et Cie	1,000,000
28-Société Syndical de Banques	1,000,000
29-Banque Renauld	1,000,000
30-Société Nancéienne	3,000,000
31-Banque de la Seine	1,500,000
32-Crédit de l'Ouest	1,000,000
33-Banque Régionale de l'Ouest	500,000
34-Banque du Dauphine	1,000,000
35-Société Lyonnaise de Dépôts	1,000,000
Total	169,000,000

〔Source : [Liste des] Banques du Consortium, chemise《SCBP, 1921-1927》, AHCA (CL-Agricole), FCL, 98AH15〕

を企てるのを躊躇しなかった」[30]。かくて、フランス銀行の補足的リスクは、5650万フラン（1921年1月29日から2月10日の期間のSCBPの資金繰りを確保するために与えた割引額）にも達した。表6が示しているように、SCBPのフランス銀行に対する債務額は1921年1月28日以来3億フランを大きく超えており、2月4日に頂点の3億3500万フラン以上――うち工業電気会社の債務は8300万フラン――にも達していた。

どこからフランス銀行（G. ロビノー）のSCBPに対するこのような格別の厚遇が来るのであろうか。勿論、フランス銀行総裁がはっきりと述べていたように、何よりもSCBPの破綻が巻き起こすであろうその反響の大きさから来ていたことは間違いない。「大多数の地方銀行の運命はSCBPの成り行き〔sort〕に結び付けられている。これら地方銀行はフランス全土で非常に多数の商工業顧客に貸付けを行っているので、取引のほとんど全般的不振のこの時期における[SCBP]破綻の影響は、まったく計り知れない反響を引き起こす恐れがあるように思われる」[31] と。フランス銀行は常に「個別利益〔intérêt particulier〕ではなく全般的利益を行動の指針としている」[32]と言明していたけれども、SCBPのためのフランス銀行による介入の分析から、補足的説明が引き出されるのである。フランス銀行のSCBPとの割引関係〔relations d'éscompte〕に関して、1920年9月以前の期間は標準的〔normal〕であったが、フランス銀行の自発的な介入は、SCBPが既に重大な財政的困難に陥っていた時の1920年9月から開始した。フランス銀行は、SCBPの必要に応じて、商業手形に加えて、信用手形〔papiers de crédit〕の割引をも受け入れ始めたのである。SCBPから得られた情報を確認することもせず、SCBPの貸方〔actif〕の価値を吟味もせずに[33]、SCBPの破綻とその結果起こり得る大被害[破局]を回避するために、フランス銀行は、SCBPの問題〔affaire〕に単独でしかも次第に深く関与して行き、とうとう抜き差しならない状況〔engrenage répétitif〕にまで巻き込まれていったのである。

実際、フランス銀行はSCBPからその債務額に比較して僅かな担保しか受け取っていなかった。すなわち、フランス銀行はSCBPから主として次のような担保しか得ていなかったのである[34]。

(a) フランス政府への工業電気会社の（係争中）債権2500万フラン債権譲渡証書

〔délégation de 25 millions de frs〕。

(b) 各種有価証券（総計で 700 万フラン未満と評価された）

パリ商工金庫[35]株（SCBP が 1230 万フランで購入）・・・・・・・・・・・・9,850 株

地方不動産連合〔Union Provinciale Immobilière〕（評価 450 万フラン）・・8,305 株

ドイツ外国債〔Rente Emprunt Extérieur allemand〕（2 万 4696 フラン）

国防債〔Bons de la Défense Nationale〕（102 万 5900 フラン）

他方、最終的には（1927 年に）、SCBP の貸方のうち、2 億フランは損失と見なされねばならず、フランス銀行の実質的リスクはおよそ 1 億 7100 万フラン、総損失額は 1 億 400 万フランと評価されたのであった[36]。

したがって、パリの銀行団の[介入]支援は、SCBP ばかりでなくフランス銀行にとっても、いわば天祐〔secours du Ciel〕となったのである[37]。かくして、フランス銀行は、SCBP の問題から教訓を引き出しつつ、SCBP への介入よりも若干遅れた BIC への介入についてはより慎重であろうとしたように思われる。実際、フランス銀行は SCBP には 3 億 3500 万フラン以上もの割引を認めていながら、BIC については 7500 万フラン（後に 1 億 5000 万フラン）しか認めなかったからである[38]。BIC の銀行窓口の閉鎖後（1921 年 6 月末日）、外務省事務総長 Ph. ベルトロ〔Philippe Berthelot〕は、大蔵省（パルマンチエ＝ドゥメール〔Parmentier = Doumer〕）の見解と声明を批判して、蔵相から共和国大統領（ミルラン〔Millerand〕）への [BIC の窓口閉鎖に至った経緯を説明した]1921 年 7 月 5 日付書簡[39]に次のように注釈した。「フランス銀行については、その努力〔effort〕の総計は、BIC に対しては 1 億 5000 万フランであったのに、SCBP に対しては 4 億フランであった。SCBP の救済は単なる国内問題であったのに、そのような取扱いの相違の理由を知るのは興味深いことであろう」[39]と 。

フランスのほとんど全ての大銀行、パリ・オートバンク、主たる地方銀行・地域銀行が加わった SCBP 支援銀行団については、最終的には、BIC 支援銀行団（12 行）よりもはるかに多くの 55 銀行を数えた。そして、1921 年 2 月に、BIC への支援金（1 億 300 万フラン）よりもはるかに多額の支援金 1 億 6374 万 1000 フランを集めたのである[40]。その後、同年 4 月 26 日に SCBP は再び危機的状況に陥ったので、新たに 5000 万フランの支援（貸付）

をSCBP支援銀行団（35銀行）に要請することになったが、主としてパリの大預金銀行の拒絶によって暗礁に乗り上げた。SCBP支援銀行団の特別委員会〔Comité spécial〕は、こうした状況をフランス銀行総裁G. ロビノーと蔵相P. ドゥメールに訴えるしか術がなかった[41]。SCBPへのさらなる追加支援を得るために、1921年5月11日に大統領府の執務室〔cabinet〕にパリの銀行家を糾合して、ミルランによる支援要請〔intervention〕が行われた。その結果、[介入]支援銀行団は、同年6月に、「もしスランス銀行が同額の流動化手形〔papier de mobilisation〕の割引、特に工業電気会社の手形の受入を認めるのであれば」、およそ2000万フランから2500万フランの貸付を増加させる意向であることを示した。フランス銀行がその要請を承諾したにも拘らず、支援銀行団のメンバーは1240万フランの金額しか集めることができなかった。その結果、最終的に支援銀行団はSCBPに1億7614万1000フラン（実際に支払われたのは1億7300万フラン）を貸付けたのである[42]。表8は、1921年10月24日現在のSCBPへの支援銀行の広がりとその支援額を示している。

表8　SCBPへの支援銀行と支援額　（1921年10月24日）（単位：1,000フラン）

Etablissement	資本金（1921年）	支援額
1-Banque Française pour le Commerce et l'Industrie	100,000	12,500
2-Banque de Paris et des Pays-Bas (Paribas)	150,000	11,000
3-Banque de l'Union Parisienne (BUP)	150,000	11,000
4-Crédit Lyonnais (CL)	250,000	11,000
5-MM. de Rothschild frères	50,000	11,000
6-Société Générale (SG)	500,000	11,000
7-Banque Nationale de Crédit (BNC)	500,000	10,000
8-Comptoir National d'Escompte de Paris (CNEP)	250,000	10,000
9-Crédit Commercial de France (CCF)	120,000	6,600
10-Crédit Industriel et Commercial (CIC)	100,000	6,600
11-Crédit Foncier d'Algerie et de Tunisie (CFAT)	125,000	5,250
12-Crédit Français	50,000	5,250
13-Banque des Pays du Nord	50,000	5,100
14-Banque Privée	50,000	5,000
15-Caisse Commerciale et Industrielle	22,000	5,000
16-Compagie Algérienne	100,000	5,000
17-Crédit du Nord	125,000	5,000

18-Banque de Mulhouse	72,000	3,300
19-Société Nancéienne	75,000	3,300
20-Banque Adam	25,000	3,000
21-Banque d'Alsace et de Lorraine	30,000	3,000
22-Banque Générale du Nord	100,000	3,000
23-Crédit Mobilier Français (CMF)	100,000	3,000
24-Comptoir Lyon-Alemand	50,000	2,200
25-Banque Transatlantique	40,000	2,200
26-Banque de la Seine	60,000	1,500
27-Crédit de l'Ouest	50,000	1,050
28-Banque du Dauphine	25,000	1,000
29-Banque Franco-Japonaise	25,000	1,000
30-Banque Renauld	40,000	1,000
31-Lehideux et Cie	20,000	1,000
32-Société Lyonnaise de Dépôts	30,000	1,000
33-Société Syndical de Banques	20,000	1,000
34-Banque Régionale de l'Ouest	10,000	500
35-Société Marseillaise de Crédit Industriel	75,000	500
36-Crédit Algérien	8,000	400
37-Claude Lafontaine, Prévost et Cie	35,000	300
38-Banque L. Dupont et Cie	60,000	250
39-Courvoisier-Berthoud et Cie	–	250
40-Demachy et Cie	10,000	250
41-Heine et Cie	–	250
42-Hottinguer et Cie	–	250
43-Lazard frères et Cie	–	250
44-Mallet frères et Cie	–	250
45-Mirabaud et Cie	6,000	250
46-De Neuflize et Cie	–	250
47-Stern et Cie	–	250
48-Vernes et Cie	–	250
49-Cahen d'Anvers et Cie	–	200
50-Badon-Pascal, Pommier, Gouraud et Cie	10,000	100
51-Bauer, Marchal et Cie	4,000	100
52-Bénard frères et Cie	4,000	100
53-Guiard André et Cie	–	100
54-Msssein, Fisson et Cie	–	100
55-Thalmann et Cie	–	100
Total		173,100

〔Source : Lettre du Gouverneur de la Banque de France à P. Doumer du 24 octobre 1921, AEF, B31597 (BIC, Correspondance, No,158) ou B31601 (BIC, Correspondance, No,170〕

フランス銀行総裁は、蔵相宛1921年10月24日付書簡で、[SCBP]支援銀行団〔Consortium des Banques〕について次のように指摘した。「これらのいくつかの銀行にとって、企てられた資本投下〔engagements pris〕は相当な額であり、その資本金と比較して見ても時には過大でさえある」[43]。そして、「ある場合には、もし貸付けた額が失われてしまうことになったなら、数年間の配当金は全て使い果たされるばかりでなく、銀行の運命さえ危険にさらすことになるであろう」[43]と。こうした状況は、いくつかのこれら銀行はBICへの支援も承諾していたという事実によって、一段と重大化したのである。すなわち、SCBPとBICの両行の支援に参加した銀行は、パリバ（両行への支援額合計3300万フラン）、ソシエテ・ジェネラル（同2100万フラン）、フランス商工銀行（同2050万フラン）、ロチルド兄弟商会（同1800万フラン）、国民信用銀行（同1500万フラン）、アルジェリア・チュニジア不動産銀行（同1025万フラン）、フランス・クレディ・モビリエ（同400万フラン）、セーヌ銀行（同350万フラン）であった。つまり、フランス銀行、銀行団の支援はこの時点でそれぞれの限界を超えていることを示唆したのである。

おわりに

このように、フランス銀行やSCBP支援銀行団（55銀行）の一致協力した支援努力にもかかわらず、1920-21年恐慌の影響を受けて、SCBPの再建は容易に進捗しなかった[44]。そうして、1921年12月にはSCBPの8年計画の再編成〔réorganisation〕案が討議されるに至った[45]。

1922年5月23日のSCBP株主総会で、Ch. デュモンは、8名の取締役と共に、頭取を辞職したのに代わって、キウキヴィック〔Lieukiewicz〕が新頭取に就任したが（～1934年）、その後のSCBPの事態に大きな変化が見られなかった[46]。

その後数年間のSCBPの状況については不明であるが、1927年3月になってようやく、SCBPを破産させないために、工業電気会社を1億2000万フランで第三者に売却することによって、フランス銀行と支援銀行団の貸付金を弁済する――銀行団は貸付総額1億7400万フランの70％を弁済される――という調停〔arrangement〕案で決着が図られることになった[47]。そうして、遂にSCBPは1933年4月12日に更生整理〔liquidation judiciaire〕となり、支払いを停止したのである。こうして、1934年4月12日のパリ控訴

院の判決により、最終的にSCBPは倒産に至ったのである。

注

(1) 1921年1月初頭にロイター通信社がフランスやアメリカでの多数の銀行倒産、とりわけBICとSCBPの倒産を極東全体に報じたことをいう。 Cf. Nobutaka Shinonaga, *La Formation de la Banque Industrielle de Chine et son Ecroulement − Un défi des frères Berthelot −*, Thèse de doctorat de 3e cycle (Paris VIII), juin 1988 (Thèse dactylographiée, Université de Lille III, A.N.R.T. : 006825109, 1989) ; 篠永宣孝「中国興業銀行の破綻」『東洋研究』、2015年。

(2) Patrice Morlat, *Le Krach de la Banque Industrielle de Chine*, Paris (Les Indes savantes), 2012 ; J.-N. Jeanneney, "Finance, presse et politique : l'affaire de la Banque industrielle de Chine (1921-1923)", *RH*, N° 514, avril-juin 1975, reproduit dans *L'Argent caché*, Paris (Fayard), 1981 ; 濱口學「第七次ブリアン内閣の極東政策（一）、（二）、（三）、（四）、（五）」『國學院法学』第二三巻第四号、第二四巻第二号、第四号、第二六巻第三号、第四号、1986～1989年。

(3) 篠永宣孝『フランス帝国主義と中国』春風社、2008年、第9章、参照。

(4) Léon Baréty, *L'Evolution des Banques locales en France et en Allemagne*, Paris (Rivière), 1908 ; du même, "La Concentration des Banques de Province en France", *Annales des Sciences Politiques*, tome 25, 1910, pp. 37-55 ; Georges Charpenay, *Les Banques Régionalistes*, Paris (Nouvelle Revue Critique), 1939 ; Adrien Capmal, *La Renaissance des Banques locales et le Régionalisme bancaire*, Montpellier, 1921 ; Germain Martin, *Banques régionales et banques locales*, Editions de *"La France Economique et Financière"*, 1922 ; Hubert Bonin, *La banque et les banquiers en France du Moyan Age à nos jours*, Paris (Larousse), 1992, pp. 69-85 ; Philippe Jacquemard, *Les Banques lorraines*, Paris (Arthur Rousseau), 1911 ; Jacques Laloux, *Le Rôle des Banques locales et régionales du Nord de la France dans le Développement industriel et commercial* (thèse de doctorat), Paris, 1924 ; Michel Lescure et Alain Plessis, *Banques locales et Banques régionales en Europe au XXe siècle*, Paris (Albin Michel), 2004 ; Michel Siegel, *Les Banques en Alsace, 1870-1914*, Strasbourg (Coprur), 1993 ; Olivier Chabasseur, *Les banques régionales et locales en France et en particulier dans le Dauphiné,* Grenoble, 1942 ; Paul Klein, *L'Evolution contemporaine des Banques Alsaciennes*, Paris, 1931 ; 権上康男「19世紀末・20世紀初頭におけるフランスの通貨・信用構造とフランス銀行の「高正貨準備」」『エコノミア』第65号、1979年、61-113頁；中川洋一郎『フランス金融史研究』中央大学出版部、1994年、129-170頁；酒井一夫・西村閑也(編著)『比較金融史研究』ミネルヴァ書房、1992年、215-240頁。

(5) *Exposition universelle et internationale de Gand*, pp. 80-89；Edmond Odier, *La Renaissance de la Banque locale*, Paris, 1912.

(6) 県銀行家組合連合〔Union Syndicale des Banquiers des Départements〕は、1884年に職業組合〔syndicat professionnel〕として設立された。同連合は、メンバー[地方銀行家]共通の利益を擁護し研究する団体であり、いかなる商業金融取引も行わない。1913年現在で、165銀行家（メンバー）で構成され、378支店・営業所、つまり420カ所に543事業所を擁していた。組合連合長はルイ・デュポン〔Louis Dupont〕(banquier à Douai)、副組合連合長はアシル・アダン〔Achille Adam〕(banquier à Boulogne-sur-Mer)、アンリ・ドクロワ〔Henri Decrois〕(banquier à Lille)、モーリス・シャリュス〔Maurice Chalus〕(banquier à Clermont-Ferrand)、書記局員はオーギュスト・ロンデル〔Auguste Rondel〕（リヨン＝マルセイユ私立銀行取締役）であった。 Cf. *Exposition universelle et international*

de Gand, 1913, pp. 87-88 ; Paul Fleuriot, *L'Histoire de la Banque Adam, 1784-1937*, s, d. p. 3.

(7) 地方銀行組合〔Syndicat des Banques de Province〕は、実働機関であるSCBPを通して大規模な債券発行や企業の発起に参加することを目的とする職業団体で、県銀行家組合連合のメンバー（銀行家）たちによって1899年に設立された。1913年の経営委員会〔Comité de Direction〕は、組合長のアシル・アダン〔Achille Adam〕（SCBP社長）、委員のモーリス・シャリュス〔Maurice Chalus〕（シャリュス兄弟商会、フランス銀行取締役、クレルモン - フェラン商業会議所会頭）、レイモン・リシュー〔Raymond Richou〕（リシュー商会）、オーギュスト・ロンデル〔Auguste Rondel〕（リヨン＝マルセイユ私立銀行取締役）、ポール・チュパン〔Paul Tupin〕（元北部信用銀行パリ支店長）、エミール・ド・トランコー・ラ・ツール〔Emile de Trincaud La Tour〕（ボルドー銀行副頭取）、事務長のカジミール・プチ〔Casimir Petit〕（SCBP代表取締役）で構成されていた。Cf. *Exposition universelle et international de Gand*, 1913, pp. 80-88.

(8) Statuts de la SCBP (1912), Statuts de la SCBP (1920) et [Brochure sur la] SCBP, s.d., AN, 65AQ, A1275 (Société Centrale des Banques de Province) ; Léon Baréty, *L'Evolution des Banques locales en France et en Allemagne*, pp. 29-30 et 151-169 ; Adrien Capmal, *La Renaissance des Banques locales et le Régionalisme bancaire*, pp. 43-94 ; Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, Paris, 1922, pp. 29-30 et 179-183 ; *Exposition universelle et internationale de Gand*, pp. 81-86 ; Jacques Boudet (dir.), *Le Monde des Affaires en France de 1830 à nos jours*, Paris, 1952, p. 47.

(9) SCBP加盟銀行の900支店と1461窓口のリストについては次を参照。Cf. *Exposition universelle et internationale de Gand*, pp. 83-86.

(10) Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, op. cit., pp. 179-181.

(11) Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, op. cit., pp. 55 et 181-183.

(12) Laure Quennouëlle-Corre, *La place financière de Paris au XXe siècle, Des ambitions contrariées*, Paris (IGPDE), 2015, pp. 40-45 ; Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, op. cit.

(13) Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, op. cit., pp. 258-261.

(14) Statuts de la SCBP (1920) et [Brochure sur la] SCBP, s.d., AN, 65AQ, A1275 (Société Centrale des Banques de Province) ; Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, op. cit., pp. 312-313, 342-343 et 362.

(15) シャルル・デュモン〔Charles Dumont〕（1867-1939）：哲学教授資格所有者・リセ教授（1891～98年）、1898年にジュラ県〔Jura〕下院議員に選出され、1924年まで再選され議席を保持する。その間、1910年に予算委員会報告者、1911年に公共事業相、1913年に蔵相に就任する。1913年12月の蔵相退任後の1914年3月19日にSCBP頭取に就任した（～1922年5月23日）。1924年からはジュラ県上院議員に選出され（～1939年）、1930年に蔵相、1931-32年に海相に就任した。実業界においては、SCBP頭取以外に、日仏銀行〔Banque Franco-Japonaise〕頭取、工業電気会社〔Compagnie d'Electricité Industrielle〕社長の他、多数の企業（Société industrielle d'énergie électrique, Compagnie d'électricité de Varsovie, etc.）の取締役も兼務していた。 Cf. *Les Ministres des Finances de 1870 à nos jours*, MEFMB, 1992, pp. 82-83 ; Pierre Jeambrun, *Charles Dumont, Un radical de la Belle Epoque*, Paris (Tallandier), 1995, pp. 183-201 ; P.-R. Ambrogi et J.-P. Thomas, *Sénateurs, 1891-2001*, Biarritz (atlantica), 2001, p. 304 ; *Dictionnaire des Parlementaires français (1889-1940)*.

(16) エマニュエル・ガリュ〔Emmanuel Gallut〕（1868-1943）：弁護士のジャン・ガリュ〔Jean Gallut〕（1822-　）の息子として、ジョンザック〔Jonzac〕に誕生した。法学士取得後、1893年に大蔵省に入省。1901年に会計検査官、1903年に私立政治学院〔Ecole libre des Sciences Politiques〕講師、1907年にインドシナ財政管理局長、1912年から1914年までモロッコ財政局長〔directeur général des Finances du Protectorat Marocain〕であった。1914年退官してSCBP代表取締役に就任した。Cf. Emmanuel Chadeau, *Les inspecteurs des Finances au XIXe siècle (1850-1914)*, Paris (Economica),

1986, p. 132.

⑰ PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, Délibérations du Conseil Général de la Banque de France, vol. No. 108, pp. 317-335, ABF.

⑱ G. ロビノーによると、1919 年 2 月 1 日に 1 億 400 万フランに達した SCBP の債務額は、同年 7 月 1 日におよそ 4900 万フランに下落した。これは「明らかな柔軟性〔réelle souplesse〕」を示しており、この柔軟性は 1920 年 8 月まで維持されていた、と。 Cf. PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, Délibérations du Conseil Général de la Banque de France, vol. No. 108, pp. 318-319, ABF.

⑲ PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, p. 318.

⑳ ジャン・ガルモ〔Jean Galmot〕(1879-1928)：貿易商、ジャーナリスト、作家、立志伝中の人物、政治家。多数の海外店をアンティル諸島、アフリカ、インドに開設し、外国産品のフランスへの輸入を専業とした。こうした商取引の大成功により、1919 年にギアナ〔Guyane〕県下院議員に選出された。だが、間もなく彼の急速な資産形成は民事事件とされた。フランス軍へのラム酒の納入で法外で不正な利益を得たとして有罪の宣告を受け、1921 年 3 月 31 日に彼の議員特権は剥奪された。彼は BIC においても大きな債務を抱えていた。 Cf. *Dictionnaire des Parlementaires français (1889-1940)* ; Pierre Jeambrun, *Charles Dumont, Un radical de la Belle Epoque*, op. cit., pp. 188-201.

㉑ PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, pp. 320-321.

㉒ G. ロビノーによると、「SCBP からの預金引出し――1 億 5000 万フラン近くの預金引出しがあって、1920 年 12 月 31 日に預金高は 2 億 6600 万フランにまで減少していた――と共に、特に 6％利付フランス国債〔rentes françaises 6%〕発行を含めた大量の流動資本の必要性を引き起こしたという別の理由が加わった。加盟銀行は口座の信用〔crédit de leur compte〕を集めて応募〔souscriptions〕の保証〔couverture〕に充て、そして、現金で国庫にその額を支払う前に、SCBP は有価証券の再割引によってしか獲得できない資金を必要としていた。かくて、これら必要資金は極めて高い数値に達することとなった。なぜなら、SCBP は 6000 万フラン――パリで 650 万フラン――のフランス国債を集めたからであった」。フランス銀行がリスクを拡大させていた間、パリの諸銀行は「SCBP に与える支援を縮小させていた。すなわち、SCBP によって銀行以外で売却された手形や毎日供与された貸付は、1920 年 9 月 30 日の時点で、1 億 1900 万フラン以上に達していた。それは、1920 年 12 月 31 日には 6780 万フラン、1921 年 2 月 2 日には 4000 万フランに減少していたからである。したがって、この期間にフランス銀行によって SCBP に与えられた支援は、フランス銀行のリスクが増大していたのに反し、諸銀行のリスクを三分の二縮小させ、緩和させる結果となった」のである。Cf. PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, pp. 321-323.

㉓ PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, p. 322 ; PV de la Banque de France du 31 mars 1927, op. cit., vol. No. 116, p. 483.

結局、SCBP の 1920 年度決算は 5300 万フランの欠損を計上したが、それは実際の被った損失や必要な償却額のほんの一部であった。 Cf. Edmond Baldy, *Les Banques d'affaires en France depuis 1900*, op. cit., p.343.

㉔ パリ会議〔Conférence de Paris〕は、とりわけ戦争賠償金問題を討議するために、1921 年 1 月 24 日から 29 日にパリで開催された。

㉕ PV de la Banque de France du 3 février 1921, op.cit, vol. No. 107, pp. 168-271, notamment 270-271. 首相兼外相 A. ブリアンも共和国大統領 A. ミルランも SCBP の財務状態を知らされており、フランスの主要銀行に助力を求めるのに賛同していた。 Cf. PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, pp. 324-325.

㉖ PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, p. 325.

㉗ PV de la Banque de France du 3 février 1921, op.cit, vol. No. 107, pp. 270-271.

㉘ PV de la Banque de France du 31 mars 1927, op. cit., vol. No. 116, p. 485.

(29) Lettre du Consortium des Banques intervenantes à la SCBP du 31 janvier 1921, MAE(SE, AO), Chine, vol. 102, folio 44-46 ; Lettre de J. Exbrayat, président du Comité, au Gouverneur de la Banque de France du 26 avril 1921 et [Liste des] Banques du Consortium, chemise《SCBP, 1921-1927》, AHCA (CL-Agricole), FCL, 98AH15 .

銀行団の「[特別] 委員会〔comité〕は、特に人事の変更、継続中の債務の清算、新事業の裏取引、必要になった場合に株式資本の未払い分の請求など、最も広範な権限を持つことになる」。そこで、銀行シンジケート団はまずSCBPに二人の支配人、ジュール・ランソン〔Jules Ranson〕とラウル・ド・ショーナック＝ランザック〔Raul de Chaunac-Lanzac〕の解任を要求したのである。 Cf.*"Cote Bourse et Banque"*du 30 juin 1921, AN,65AQ, A366[2] (BIC).

(30) PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, p. 325.

したがって、SCBPのフランス銀行への債務は1921年2月4日の3億3536万フランにまで増加し続けていたことに注目せよ（表6参照）。

(31) Lettre du Gouverneur de la Banque de France à P. Doumer, ministre des Finances, du 24 octobre 1921, AEF, B31597 (BIC, Correspondance, no. 158) ou B31601 (BIC, Correspondance, no. 170). 実際、フランス銀行は、特に1880年代以降積極的に支店業務を拡大すると同時に、地方銀行・地域銀行との相互依存関係を強化してきたので、SCBPの破綻があった場合に、フランス銀行の地方支店（1913年に592店舗）業務に甚大な影響が及ぶ危険があったのである。それがSCBPを特別に厚遇した最も大きな要因であったと思われる。 Cf. 篠永宣孝『フランス帝国主義と中国』春風社、2008年、324-344頁；権上康男「19世紀末・20世紀初頭におけるフランスの通貨・信用構造とフランス銀行の《高正貨準備》」『エコノミア』第65号、1979年、61-113頁；Pierre Jeambrun, *Charles Dumont, Un radical de la Belle Epoque*, op. cit., pp. 183-186.

(32) PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, p. 325.

(33) 例えば、SCBPは工業電気会社の事業に過度に巻き込まれており、SCBPの同社への信用貸しだけで総計1億6700万フランにも達していた。 Cf. PV de la Banque de France du 31 mars 1927, op. cit., vol. No. 116, p. 493.

(34) PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, p. 329 et PV de la Banque de France du 31 mars 1927, op. cit., vol. No. 116, p. 485.

(35) パリ商工金庫〔Caisse Commerciale et Industrielle de Paris〕は大型土木事業家のグループによって1897年に設立された。創業資本金は120万フランで、1912年に500万フラン、1914年に2200万フランに増額された。こうした増資にも拘らず、同金庫は重要な利害を持っていたブラジルを襲った金融経済恐慌によって大きな財政的困難に直面していた。パリ商工金庫の増資に貢献したSCBPは、同金庫株の大部分――9850株（1230万フラン）――を保有していた。同金庫の頭取は著名な実業家アメデ・レイユ男爵〔Baron Amédée Reille〕(1873-1944) ――タルン〔Tarn〕選出代議士（1899-1914）で、les Mines, fonderies et forges d'Alais の取締役を始め多数の金属事業の取締役を兼ねていた――であり、戦前にはSCBPの取締役も兼ねていたが、1920年までに退任している（表1、表4参照）。 Cf. PV de la Banque de France des 1er juin 1921, 8 décembre 1921 et 15 juin 1922, op.cit, vol. No. 108 ; Henry Coston, *Dictionnaire des Dynasties bourgeoises et du Monde des Affaires*, Paris, 1975, pp. 452-456.

(36) PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, p. 328 et PV de la Banque de France du 31 mars 1927, op. cit., vol. No. 116, pp. 484-485 et 493-494.

(37) フランス銀行の議事録は特に次のように明言している。「SCBPはしたがって窓口の閉鎖を考えていたが、そのような事態が生じるままにしておく前に、フランス銀行やSCBP自身への働きかけ〔démarche〕が是非とも必要であった」と。Cf. PV de la Banque de France du 8 décembre 1921, op.cit, vol. No. 108, p. 324.

(38) 篠永宣孝「中国興業銀行の破綻」『東洋研究』、2015年。

(39) 蔵相の共和国大統領への 1921 年 7 月 5 日付書簡の余白への Ph. ベルトロの書き込み。
Lettre de Doumer à Millerand du 5 juillet 1921, MAE(SE, AO), Chine, vol. 93, folio 87-99, notamment 89, ou MAE(PA), Papiers Millerand, vol. 8, pp. 59-62.
Ph. ベルトロは書簡の余白にまず注釈の前置きとして、「事実は真実の下に提示されていない」と記した後、赤インクで長文の注釈を加え、蔵相ドゥメールの主張〔thèse〕――恐らく大蔵省国庫局長パルマンチエによって作成された――の論拠を一つ一つ論駁している。

(40) *"Echo National"*du 10 février 1922, MAE(PA), Papiers Millerand, vol. 9, folio 10 ; PV de la Banque de France du 3 mars 1921, op. cit., vol. No. 107, pp. 342-344 ; PV de la Banque de France des 28 avril, 12 mai, 16 juin et 8 décembre 1921, op. cit., vol. No. 108, pp. 4-9, 36-37, 94-97 et 326 ; PV de la Banque de France du 31 mars 1927, op. cit., vol. No. 116, p. 486 ; Pierre Jeambrun, *Charles Dumont, Un radical de la Belle Epoque*, op. cit., pp.194-196 .

(41) Lettre de J. Exbrayat, président du Comité, au Gouverneur de la Banque de France du 26 avril 1921 et Lettre du Crédit Lyonnais au président de la SCBP du 30 avril 1921, chemise《SCBP, 1921-1927》, AHCA (CL-Agricole), FCL, 98AH15 .

(42) *"Echo National"*du 10 février 1922, MAE(PA), Papiers Millerand, vol. 9, folio 10 ; PV de la Banque de France du 3 mars 1921, op. cit., vol. No. 107, pp. 342-344 ; PV de la Banque de France des 28 avril, 12 mai, 16 juin et 8 décembre 1921, op. cit., vol. No. 108, pp. 4-9, 36-37, 94-97 et 326 ; PV de la Banque de France du 31 mars 1927, op. cit., vol. No. 116, p. 486.

(43) Lettre du Gouverneur de la Banque de France à P. Doumer du 24 octobre 1921, AEF, B31597 (BIC, Correspondance, No,158) ou B31601 (BIC, Correspondance, No,170).

(44) ちなみに、1920-21 年の経済恐慌や会社更生手続き企業の続出、さらに SCBP 再建の遅滞などの影響を受けて、SCBP 加盟銀行の一つである、シャルルヴィル〔Charleville〕の大銀行、クロード・ラフォンテーヌ＝プレヴォ商会〔Claude-Lafontaine, Prévost et Cie〕は、1922 年 2 月に支払いを停止（倒産）した。というのは、SCBP 事件で大きな損害を被っていた銀行家たちは同商会を容易に援助しようとしなかったからだと言われている。 Cf. [Compte rendu des] Réunion de l'Union Syndicale des Banquiers du 23 mars 1927, chemise《SCBP, 1921-1927》, AHCA (CL-Agricole), FCL, 98AH15 ; Germain Martin, *Banques Régionales et Banques Locales*, Paris, 1922, p. 21.

(45) Lettres du Crédit Lyonnais (Baron Brincard) au président de la SCBP du 1er décembre et du 9 décembre 1921, chemise《SCBP, 1921-1927》, AHCA (CL-Agricole), FCL, 98AH15 .

(46) *"La Vie Financière"*du 27 juin 1921 et*"Commentaire"*du juin 1933.

(47) [Compte rendu des] Réunion de l'Union Syndicale des Banquiers du 21 mars 1927, [Compte rendu des] Réunion de l'Union Syndicale des Banquiers du 23 mars 1927, Lettre addressée par la SCBP aux banquiers faisant partie du Consortium du 25 mars 1927, Réponse du Crédit Lyonnais du 26 mars 1927 et Lettre du Crédit Lyonnais (E. Escarrad) à Monsieur Platet, Administrateur-Délégué de la SCBP du 28 Mars 1927, chemise《SCBP, 1921-1927》, AHCA (CL-Agricole), FCL, 98AH15.